

MONTHLY

世界の視点で情報を発信する総合誌

2015
12
DECEMBER

KōRON

発行・株式会社財界通信社 平成27年12月1日発行 毎月1回1日発行 第48巻12号 昭和47年11月10日第三種郵便物認可



姿、形が見えない「一億総活躍社会」
『国民不在』の新三本の矢

月刊公論



川島なお美さん 最期まで

長尾和宏
(ながお かずひろ)
**医療法人社団裕和会理事長、
長尾クリニック院長**

1984年 東京医科大学卒業、大阪大学
第二内科入局、
1991年 医学博士（大阪大学）授与
1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業、現在に至る
日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス在宅ケア研究会理事、日本草薙死協会副理事長、全国在宅医療支援連絡会議理事、関西国際大学客員教授、東京医科大学客員教授（高齢総合医学講座）
【医学博士】
日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本内科学会認定医、労働衛生コンサルタント
【著書】
平穀死・10の条件』（ブックマン社）、
『抗がん剤・10のやめどき』（ブックマン社）『胃ろうという選択、しない選択』（セブン＆アイ出版）『がんの花道』（小学校）『抗がん剤が効く人、効かない人』（P H P 研究所）『大病院信仰、どこまで続けますか』（主婦の友社）など。
【医学書】
スーパー総合医叢書・全10巻の総編集
(中山書店) 第一巻『在宅医療のすべて』、第二巻『認知症医療』など多数。

まで舞台に立てたという事実こそが、腹腔鏡手術という選択が間違いで無駄だったことを示している。つまり群馬大学での腹腔鏡手術事件は「手術死」だったが、川島さんの場合は「がん死」であった。決して両者を混同してはいけない。

がん性腹膜炎や腹水における治療

まで舞台に立てたという事実こそが、腹腔鏡手術という選択が間違いで無駄だったことを示している。つまり群馬大学での腹腔鏡手術事件は「手術死」だったが、川島さんの場合は「がん死」であった。決して両者を混同してはいけない。

いにくつつく結果、『癒着』をおこす
自由に動きまわれるはずの腸管が自由に蠕動運動できない状況に陥る。
消化液が停滞して口側に上がり畠叶するが、その状態を腸閉塞と呼ぶ。
川島さんは5リットルの腹水が貯まつた状態で、亡くなる1週間前まで舞台に立つたという。そもそも『がん性腹膜炎』で貯まる腹水とどう付き合えばいいのだろうか。

私は「腹水や胸水は決して異物ではなく炎症の結果に過ぎない。貯まる理由を考えよう」と常々説明している。実際、『がん性腹膜炎』という根本問題が解決しない限り、いくら腹水を抜いてもまたすぐに貯まるだからできるだけ水を抜かない方法

膜炎で貯まる腹水

いにくつつく結果、『癒着』をおこす
自由に動きまわれるはずの腸管が自由に蠕動運動できない状況に陥る。
消化液が停滞して口側に上がり畠叶するが、その状態を腸閉塞と呼ぶ。
川島さんは5リットルの腹水が貯まつた状態で、亡くなる1週間前まで舞台に立つたという。そもそも『がん性腹膜炎』で貯まる腹水とどう付き合えばいいのだろうか。

提案する。まずは利尿剤により、栄養分を残したまま体内から水分だけ抜くことができる。

もうひとつは、"待つ"ことだ。人間は生きるために1日最低1トルの水分が必要だが、もし口から水分がほとんど入ってこなければ、人間は自分のお腹の中に貯まつた水分を使つて生き延びようとする。つまり何らかの理由で絶飲絶食になれば、生存のために必要な水分は主に腹水や胸水から提供されるはずだ。

実は私はこの10年間、在宅ホスピスで多くのがん患者さんを最期まで診てきたが、腹水や胸水を抜いた人は一人もいない。ちなみに30年前の私は毎日、水を抜きまわるのが日常

の生き方に学ぶ 舞台に立てた理由

医学博士 長尾 和宏

年7月の人間ドックを受けた際に偶然にも胆管に直径2cmの腫瘍が発見され、その半年後の2014年1月に腹腔鏡手術を受けられた。しかし今年、がんの再発が判明したが抗がん剤治療を拒否し、「亡くなる1週間前まで舞台に立たれていた。いつからか死を覚悟し、「舞台で死ねたら本望」とまで語られたという。多くの女優さんは体調が悪くなれば人前にはまず出ない。しかしこ病気で瘦せられた川島さんは、誰の目から見ても健康体とは程遠いシルエットになつてもカメラの前に姿を見せてくれた。和服から仕立てたという美しいドレスを纏つて、優しそうなご主人とともにシャンパングラスを片手に、優雅に笑つてみせられて、女優オーラが全開だった。

「末期がんでも」「なる1週間前まで仕事ができるのですか?」何人かからそう聞かれた。「もちろんそんな人はおられます。ただし、いくつかの共通点があります」とお答

腹腔鏡手術といひ選択

開腹手術とほぼ同等と言われている
腹腔鏡手術を受けるがん患者さんは
が年々、増加している。川島さんは
芸能人なので、傷を小さくして早く
舞台に立つために腹腔鏡手術を選択
したのだろう。そして手術後、1年
半もご活躍され、亡くなる1週間前

「……」週間前まで舞を立っていた女優の川島なお美さんが胆管がんのために9月24日に54歳の若さで旅立たれた。川島さんは、2013年7月の人間ドックを受けた際に偶

えする。それは、(1)最期まで折から
剤をやつていない、やつっていても未
期になる前に止める(2)日々に食べら
れなくなつて瘦せてきても高カロリ
ー輸液をやつっていない(3)充分な緩和
医療を受けていることだ。

の利点は術者側にもあることはあまり知られていない。開腹手術ではお腹の中の限られた範囲しか見ることができないが、腹腔鏡を使うと内腔の奥までカメラが近づいて開腹では見ることができなかつた血管まで鮮

川島さんはがんと共に生きながら、最期まで舞台に立たれた。がんの終末期に「枯れて」いく過程を「待つ」ことができた。川島さんの生き方は、我々に穏やかな最期を迎えるヒントを沢山くれたように見えた。ご冥福をお祈りします。

(ながお・かずひろ)